

プラン8 川崎の魅力を育て発信する取組

アクションプログラム

1 音楽のまち・かわさきの推進

【主な実施結果】

音楽のまちづくりの推進

- ・「音楽のまち・かわさき」推進協議会の実施するイベントや情報発信にあたり、関係団体との調整や広報等について支援を行いました。
- ・「アジア交流音楽祭 2012」「交流の響き」を開催しました。
- ・「モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン・イン・かわさき」について、開催に向けての調整・支援を行い、昨年を上回る規模で開催し、地域の活性化や市民が身近に音楽に触れる機会の提供を図りました。また、東京交響楽団キッズプログラム等の広報支援を行い、民間等と連携した「音楽のまちづくり」を推進しました。
- ・ザルツブルク市との友好都市提携 20 周年を記念した市内音楽大学と東京交響楽団によるコンサートを、市内 3 箇所で開催するとともに、各会場でザルツブルク市を紹介する写真パネル展示も行い、両市の交流への理解を深めるとともに、音楽をはじめとした他国文化に触れる機会を提供しました。
- ・東京交響楽団による市内巡回公演を実施し、良質な音楽に触れる機会を提供しました。
- ・震災の影響によりミューザ川崎シンフォニーホールが被害を受けたことから「アジア交流音楽祭メインステージ」「交流の響き」「フェスタサマーミューザ」等を市内代替会場で開催し良質な音楽を提供することで、「フェスタサマーミューザ」では、16,381 人が来場するなど、市内での「音楽のまち・かわさき」のすそ野拡大につながりました。
- ・ミューザ川崎シンフォニーホールの復旧工事を 12 月に完了させるとともに、フェスタサマーミューザでのパネル展示など、工事概要や休館中の取組等の周知説明を実施しました。
- ・2013 年 4 月 1 日のミューザ川崎シンフォニーホールのリニューアルオープンに向け準備を進めるとともに、市政だより特別号や広報紙リザウンドでホールの復活等を広報し、リニューアルオープン後の集客を図りました。

2 映像のまち・かわさきの推進

【主な実施結果】

映像によるまちづくりの推進

- ・関係機関との調整や情報提供等の「映像のまち・かわさき」推進フォーラムへの支援を行い、映像関連の地域資源を活かした事業の円滑な実施につなげました。
- ・小学校の授業における映像制作を「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、日本映画大学、市民ボランティアと連携して 6 校で実施し、子ども達に映像を読み解く力を深めることやコミュニケーション能力の向上等を学ぶ機会を提供しました。
- ・民間企業に働きかけ、小学校の授業において制作した映像作品の発表を、民間による映像関連イベントと同時に開催することで、映像のまちの取組を P R することができました。
- ・毎日映画コンクール表彰式(2 月 7 日)の開催支援とともに、さまざまな団体に働きかけることで、市内シネコンでの受賞作品上映など地域の企業や団体による関連イベントも開催され、地域の活性化や本市の魅力向上が図られました。

アクションプログラム

3 ホームタウンスポーツの振興

【主な実施結果】

ホームタウンスポーツの推進

- ・ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した小中学生への実技指導を行うふれあいスポーツ教室の実施、ホームゲームへの市民招待、多摩川美化活動や地域イベントへの参加などにより、競技のPRや、選手等と触れ合う機会が広がり、スポーツを通じた市の魅力発信につながりました。
- ・パートナー制度の課題を整理し、親しみやすい名称（かわさきスポーツパートナー）への変更や対象要件の明確化など要綱の改正に向けた手続き等を行いました。
- ・小中学校での巡回サッカー教室、市制記念試合への市民招待、ふろん太くん似顔絵展やフォトコンテストの実施等、川崎フロンターレを、市民にとって、より身近な存在とするための取組を推進しました。

総合的なスポーツ施策の推進

- ・国際陸上競技大会、国際トランポリンジャパンオープン、川崎国際多摩川マラソン、多摩川リバーサイド駅伝を、それぞれ適切に開催し、スポーツの普及・振興を図りました。
- ・川崎市スポーツ推進計画については、パブリックコメントを実施し、9月に策定しました。また、「川崎市スポーツ推進計画庁内委員会」を設置・開催し、計画の進捗管理の体制を整備し「スポーツのまち・かわさき」の推進に向けた取組を行いました。
- ・親子ふれあい運動遊びコンサートや、関係団体等と連携し、ジュニア選手の強化・育成のための事業（指導者派遣、試合、教室等）、レクリエーション活動の普及のための事業（「あそびの日」開催）などを実施し、さまざまな人がスポーツに親しめる機会を提供しました。
- ・中原区と連携を図り、設立準備クラブの準備委員会に参加するなど活動を支援し、市内9つ目となる総合型地域スポーツクラブ「中原元気クラブ」が設立されました。

アクションプログラム

4 シティセールスの推進と観光振興

【主な実施結果】

観光の振興

- ・観光協会ホームページのタイムリーな更新に向け、イベント情報を随時提供しました。また、市内ホテルとの連携により宿泊者を対象としたパンフレット配布、観光情報端末機の新規設置(3 ホテル)を実施し、情報発信力を強化しました。
- ・羽田空港 6 県市観光情報センターの共同運営、国際観光商談会への参加、外国メディアの招聘など海外に向けた情報発信の強化に取り組むとともに、外国人観光客誘致推進セミナーの開催など外国人観光客の受入れ体制の整備に向けた取組を実施しました。また、外国語ガイド団体と連携した外国人誘致やガイドの実施、関係団体との連携による台湾の教員招聘など外国人観光客誘致に取り組みました。これらの取組を推進し、台湾の教育旅行で 2 校の誘致を実現しました。
- ・かわさき市民祭りを開催し、3 日間で 56 万 7 千人の集客がありました。
- ・重点分野雇用創造事業「観光振興イベントと連携した東北復興支援事業」として、8 人の新規雇用と、12 のイベントでの東北物産販売(売上げ 7,139 千円)を実現し、被災地支援を行いました。
- ・産業観光施設等との調整を行い、民間主導で産業観光ツアー及び工場夜景撮影ツアーを計 12 回実施しました。
- ・産業観光ガイド養成講座を開催しました。また、産業観光検定を 3 月 10 日に実施しました。

シティセールスの推進

- ・フォーリンプレスセンターとの連携による海外メディア向けツアーの実施を含むパブリシティ活動を積極的に実施し、本市の取組・イベント等の魅力情報を、海外紙を含む各種メディアを通じて発信することができました(広告換算額で約 25 億円のメディアへの露出)。
- ・ソーシャルメディアを活用した情報発信など効果的な魅力情報発信を図りました。また、シティセールスパンフレットを多言語化し、東アジアを中心とした現地旅行代理店で配布するとともに、中国の旅行ポータルサイトに川崎市の情報を掲載するなど、海外への情報発信を実施しました。
- ・イメージアップ事業認定制度により民間と連携した魅力づくりや情報発信を進めました。

アートを活かしたまちづくりの推進

- ・「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)」開催に伴う関係機関、関係部局との連絡調整、広報等の支援を行いました。開催期間中に約 22,900 人が来場し、まちの賑わいを創出するとともに「しんゆり・芸術のまち」を市内外に発信し、芸術のまちづくりを推進しました。また、2013 年度の開催に向け、開催準備及び広報等の支援を行いました。
- ・アート講座の開催支援を行い、文化芸術によるまちづくりを支える人材(市民ボランティア)の育成を図りました。
- ・市北部地域における文化芸術を活かしたまちづくりに向けた取組を進めるとともに、市域を超えた文化芸術振興の一環として、新たに稲城市との間で広報連携のための仕組みを構築しました。

文化芸術振興による魅力発信

- ・岡本太郎美術館では、展覧会の内容充実を図るとともに、広報誌の発行や無料広報媒体の活用など広報活動の工夫に努め、2012 年度の入館者数は歴代 3 位となる 83,037 人となりました。

アクションプログラム

- ・岡本太郎美術館では、ワークショップの開催など教育普及事業及びデジタルアーカイブ(岡本太郎に関する資料の収集、保存、調査研究等)を実施しました。
- ・生田緑地の横断的管理に向け、生田緑地と3つの文化施設を横断的に管理する事業スキームを確定させ、指定管理者の公募・選定、引継ぎを行いました。
- ・指定管理者による藤子・F・不二雄ミュージアムの管理運営を行い、2012年度は約48万人が来館しました。また、開館1周年、ドラえもん誕生100年前記念イベントの実施等、新たな魅力の発信拠点として事業を推進しました。
- ・地元商店会の協力による岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム等、生田緑地施設の街路灯へのフラッグ掲示、多摩区観光推進協議会の協力による商店街等地域情報を盛り込んだ藤子・F・不二雄ミュージアム周遊マップの作成・配布等、地域と連携したまちづくりを推進しました。
- ・青少年科学館は、4月28日に「かわさき宙と緑の科学館」としてリニューアルオープンし、さまざまなリニューアル記念事業を年間を通じ実施し、年間目標である入館者数30万人を2013年1月に達成しました。

東海道を活用したまちづくりの推進

- ・施設建築工事を進めるとともに、展示手法や内容の検討を行い、展示制作を進めました。なお、建築工事における地中障害物処理等により工期が延長となりました。
- ・東海道かわさき宿交流館条例を制定し、指定管理者の指定を行いました。

5 多摩川プランに基づく施策の推進

【主な実施結果】

多摩川プランの推進

- ・多摩川プラン推進会議を開催し、多摩川プランの進行管理を行いました。
- ・等々力・丸子橋地区周辺エリアの再整備について、パブリックコメントの実施結果を公表し、整備計画(改訂版)を策定しました。
- ・マラソンコースの再整備や簡易水洗トイレの設置を実施し、河川空間の改良に取り組みました。
- ・指定管理者によるバーベキュー広場の管理運営を実施しました。
- ・市内に3校ある水辺の楽校の合同事業事務局として、計画の企画策定等を行い、観察会などを3校との協働により実施しました。また、多摩川流域の他自治体との連携を図り活動を活性化させるため、他自治体の水辺の楽校へ参加し情報交換等を行いました。
- ・大学等と連携しながら、行政及び水辺の楽校が学生に対して講演を実施し、多摩川をより理解してもらうための活動を行いました。

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
アクションプログラム：音楽のまち・かわさきの推進					
○ 音楽のまちづくり推進事業 「音楽のまち・かわさき」推進協議会などの民間活力を活かすことで、市内の身近な場所での良質な音楽の提供と交流による、音楽のまちづくりを推進します。	●「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援 ●「アジア交流音楽祭」、「交流の響き」等の開催支援	●「音楽のまち・かわさき」推進協議会の支援 ●「アジア交流音楽祭」、「交流の響き」等の開催支援 ●モントルー・ジャズフェスティバル等の開催支援			事業推進
	●英国・シェフィールド市との友好都市提携20周年を記念したコンサート及び写真展の開催(2010年度)	●中華人民共和国・瀋陽市との姉妹都市提携30周年を記念した音楽等による文化交流事業の実施	●オーストリア・ザルツブルク市との友好都市提携20周年を記念した音楽等による文化交流事業の実施 ●ドイツ・リュベック市との友好都市提携20周年を記念した音楽等による文化交流事業の実施	●海外姉妹友好都市等との音楽等による文化交流事業の実施	
	●東京交響楽団による巡回コンサートの開催	●東京交響楽団による巡回コンサートの開催			
	●「フェスタサマーミュージア」の開催 ●海外オーケストラによる演奏会の開催 ●川崎シンフォニーホールの機能維持・向上のための中長期的な修繕の考え方の検討・とりまとめ	●「フェスタサマーミュージア」の開催 ●海外オーケストラによる演奏会の開催 ●川崎シンフォニーホールの機能維持・向上のための中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調整			
			●中長期的な修繕計画の策定	●中長期的な修繕計画に基づく予防保全型の維持補修の推進	

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
2011年度 実施結果	達成状況区分 4	・「音楽のまち・かわさき」推進協議会の実施するイベントや情報発信などにあたり、関係団体との調整や広報等について支援を行いました。 ・「アジア交流音楽祭2011」交流ステージを開催しました。アジア交流音楽祭メインステージと「交流の響き」は、震災の影響を受け、協議の上中止としましたが、両イベントとも、次年度開催に向け、代替会場等の調整を行いました。 ・「モントルージャズフェスティバル」について、テレビ・ラジオ及びポスター・チラシ配布等の広報支援、フリーライブ開催に向けての調整・支援等を行いました。また、東京交響楽団キッズプログラムや東扇島東公園での大型民間音楽イベントなどの広報支援を行い、民間等と連携した「音楽のまちづくり」を推進しました。 ・協議会と連携し、川崎警察署「振込み詐欺防止キャンペーンソング」の制作・普及支援を行いました。 ・瀋陽市との姉妹都市提携30周年を記念した交流コンサートを昭和音楽大学、洗足学園音楽大学、ソリッドスクエアで実施(来場者686人)し、両市の交流と、市民の瀋陽市への理解を深めました。 ・東京交響楽団による市内巡回公演を順次実施し、市民に良質な音楽に触れる機会を提供しました。 ・東日本大震災の影響でミュゼ川崎シンフォニーホールが被害を受けたことから、「フェスタサマーミュゼ」は、代替会場を確保し、音楽大学や市民館等のホールでのコンサート、市民交流室等でこどもフェスタ、企画展示室で企画展などを実施し、13,331人の入場者がありました。また、ミュゼ川崎シンフォニーホールで行っていた「名曲全集」や「ランチ&ナイトコンサート」などについても、代替会場で実施しました。 ・海外オーケストラによる演奏会については、震災により公演中止になったことから、ホームページや市政だよりに掲載するなど公演中止に伴う広報支援を行いました。 ・川崎シンフォニーホールの中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調査については、ホールが被害を受けたため、まず復旧に向けた取組を行いました。 【環境等の変化・課題】 ・東日本大震災の影響でミュゼ川崎シンフォニーホールが被害を受けたことから、「フェスタサマーミュゼ」、「名曲全集」、「ランチ&ナイトコンサート」等を市内公共施設や音楽大学等において代替公演を実施することにより、市民に良質な音楽を提供するとともに、「音楽のまち・かわさき」のより一層の推進を図りました。 ・海外オーケストラによる演奏会については、震災により公演中止になったことから、公演中止についてや、ミュゼ再開後の海外一流オーケストラによる演奏会の実施について、ホームページや市政だより等に掲載するなど広報支援を行いました。 ・ホールの中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調査については、ホールが被災したため、まず復旧に向けた取組を行うこととし、ホールの被害調査を財団法人日本建築防災協会に依頼し、8月に中間報告書の提出を受けました。6月議会で工事の補正予算議案、9月議会で工事議案が可決され、平成25年4月1日のリニューアルオープンに向け、復旧工事を進めました。			

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
2012年度 実施結果 (参考)当初の目標 に対する達成状況	達成状況区分 3* 達成状況区分 4	・「音楽のまち・かわさき」推進協議会の実施するイベントや情報発信などにあたり、関係団体との調整や広報等について支援を行いました。また、カワサキ・ストリート・ミュージック・バトルなど、若手音楽家への演奏機会の提供を行いました。 ・「アジア交流音楽祭2012」(4月14、15日)、「交流の響き」(9月9日)を開催し、広報・関係機関との調整・当日の運営補助等支援を行い、アジア交流音楽祭メインステージには1,588人の来場者、交流の響きには1,100人の来場者がありました。 ・国内外のアーティストによるライブ(5会場9公演)、ワークショップ(2回)、国内アーティストによるフリーライブ(約20回)という昨年を上回る規模の「モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン・イン・かわさき」について、開催に向けた調整・広報支援、運営等を行い、地域の活性化や市民が身近に音楽に触れる機会の提供を図りました(約1万人が来場)。 ・東京交響楽団キッズプログラムやサマースペシャルライブの広報支援等、民間と連携した「音楽のまちづくり」を推進しました。 ・ザルツブルク市との友好都市提携20周年を記念し、10月8日(川崎アゼリア)、10月15日(プラザソル)、11月6日(洗足学園前田ホール)で、市内音楽大学と東京交響楽団による記念市民コンサートを開催し、各会場でザルツブルク市を紹介する写真パネル展示も実施するなど、2都市間の交流と、ザルツブルク市への理解を深める取組を推進しました。 ・東京交響楽団による市内巡回公演については、開催施設等との調整を行い、8月には障害者支援施設、9月は児童館、10月は多摩市民館での親子&マタニティコンサート、12月は井田病院、2月は特別養護老人ホームで公演を行いました。 ・「フェスタサマーミュージア」を市内代替会場で13公演実施しました。公演前のプレトークイベントや公開リハーサルも実施し、全体で16,381人の来場者がありました。また、こどもフェスタも参加・発表型のイベントを新規に追加するなど、内容を拡充して実施しました。 ・ミュージア川崎シンフォニーホールの復旧工事を進めるとともに、各種打合せへの参加、視察の実施等により、ホール復旧工事の進捗状況について確認を行い、フェスタサマーミュージア等でのパネル展示、「再開へのあゆみ展」の開催(3月18日～4月7日)など、工事概要や休館中の取組等の周知説明を実施しました。 ・2013年4月1日のリニューアルオープンに向け、各関係団体等と調整し、式典やコンサートの準備を行いました。また、指定管理者と連携し、ホールの安全性や音響の復活、コンサート情報を、市政だより特別号や広報誌リザウンドで広報し、リニューアルオープン後の集客を図りました。 ・指定管理者の支援を行い、リニューアルオープン後の2013年11月の1週間に、世界3大オーケストラといわれる海外オーケストラによる公演を実施することになりました。 ・中長期的な修繕計画策定に向けた検討については、来年度以降の策定に向け、ホールの状況把握等に努めました。 【環境等の変化・課題等】 ・ドイツ・リューベック市との交流事業については、リューベック市から代表团等の来日がなく、実施を見送ることを2011年度中に確認しました。 ・ミュージア川崎シンフォニーホールが、東日本大震災の影響で被害を受けたことから、音楽ホールが使用不可能となりました。また、復旧工事の進捗状況を確認・精査し、中長期的な修繕計画策定に向けた検討が必要になっています。 【変更後の目標】 ・ドイツ・リューベック市との音楽等による文化交流事業は行わないこととしました。 ・ミュージア川崎シンフォニーホールでの海外オーケストラによる演奏会の開催は、2013年度以降の開催に向けた準備を行うこととしました。 ・ミュージア川崎シンフォニーホールの機能維持、向上のための中長期的な修繕計画の策定は、ホールの復旧・復興及び機能維持・向上のための中長期的な修繕計画策定に向けた検討・調整としました。			

施策計画名	現状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降

アクションプログラム：映像のまち・かわさきの推進

○ 映像によるまちづくりの推進 本市の映像に係る地域の資源を活用し、映像関連の民間の動きとの連携による取組を進め、地域の活性化につなげることなど、映像を核としたまちづくりを推進します。	●「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの活動への支援 ●日本映画学校との連携による小学校や地域における映像制作活動への支援などを通じた人材育成に向けた取組 ●NPO法人との連携による地域ボランティアの参加支援 ●「こども映像シンポジウム」の開催 ●「毎日映画コンクール表彰式」川崎開催の支援	●「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの活動への支援 ●日本映画大学との連携による小学校や地域における映像制作活動への支援などを通じた人材育成に向けた取組 ●NPO法人との連携による地域ボランティアの参加体制の確立に向けた取組 ●「こども映像シンポジウム」の開催 ●映画コンクール表彰式川崎開催の支援	事業推進			

2011年度 実施結果

達成状況区分
3

- ・新たな連携の橋渡しや毎日映画コンクール表彰式開催において、「映像のまち・かわさき」推進フォーラムを支援し、地域資源を活用した地域の活性化を推進しました。
- ・小学校の授業における映像制作を、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、日本映画大学、地域ボランティアと連携して実施し、映像を読み解く力を養うことや人との関わりなどを学ぶ機会を提供しました。
- ・日本映画大学の学生の実習機会創出に向けて、庁舎の使用について調整を進め、市施設の活用を可能とする協定を結びました。
- ・地域ボランティアに映像制作に関する説明会を行い、情報共有を図り協力体制を強化しました。
- ・小学校での授業における映像制作の成果を活用した「こども映像シンポジウム」を開催し、映像のまちづくりの取組を発信しました。
- ・震災の影響による毎日映画コンクールの会場変更をはじめとする調整やコンクールの周知等を行いました。また、川崎駅周辺で関連イベント(映画上映会への避難者招待など被災地復興支援を含む)を行い、まちの盛り上がりの創出と地域の活性化を図りました。

2012年度 実施結果

達成状況区分
3

- ・映像関連の地域資源を活かし、まちづくりの推進力とするために、関係機関との調整や情報提供等による「映像のまち・かわさき」推進フォーラムへの支援を行い、各事業の円滑な実施につなげました。
- ・「映像のまち・かわさき」推進フォーラムや日本映画大学と連携し、小学校の授業で行う映像制作の取組で講師の派遣等調整を行い、6校が実施し、映像を読み解く力を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上等を学ぶ機会の提供を行いました。
- ・NPO法人による映像制作講座の広報等の協力を行い開催を支援しました。また、小学校での映像制作授業などに映像制作支援ボランティアが参加するなど、ボランティアの育成や活動の場の拡大を図りました。
- ・民間企業に働きかけ、小学校の授業において制作した映像作品の発表を、民間による映像関連イベントと同時に開催することで、映像のまちの取組をPRすることができました。
- ・毎日映画コンクール表彰式(2月7日)の開催支援とともに、様々な団体に働きかけることで、市内シネコンでの受賞作品上映など地域の企業や団体による市内での関連イベントも開催され、地域の活性化や本市の魅力向上を図りました。

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降

アクションプログラム：ホームタウンスポーツの振興

○ ホームタウンスポーツの推進 ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組を進め、川崎のアピール・魅力づくりを図ります。	●ホームタウンスポーツ推進パートナーとの連携による本市の魅力発信	●ホームタウンスポーツ推進パートナーとの連携による本市の魅力発信			事業推進
	●パブリシティ活動を通じた情報発信や市広報媒体の活用などによる各パートナーのPRの実施	●パブリシティ活動を通じた情報発信や市広報媒体の活用などによる各パートナーのPRの実施			
	●ホームタウンスポーツ推進パートナーの公式戦への市民招待の実施	●ホームタウンスポーツ推進パートナーの公式戦への市民招待の実施			
	●市制記念試合等への市民招待の実施	●市制記念試合等への市民招待の実施			
	●小・中学校での巡回サッカー教室の開催	●小・中学校での巡回サッカー教室の開催			
	●川崎フロンターレの区民祭等への参加促進	●川崎フロンターレの区民祭等への参加促進			

2011年度 実施結果

達成状況区分
3

・ホームタウンスポーツ推進パートナー等と連携した小中学生への実技指導やホームゲームへの市民招待(富士通レッドウェーブ、東芝ブレイブサンダース、NECレッドロケッツ)をはじめ、「チャリティーふれあいスポーツフェスティバル」の開催や地域イベント(楽大師、いいじゃんかわさき、日吉まつり等)への参加も実施したことで選手等とふれあう機会が広がり、スポーツを通じた市の魅力発信につながりました。

・震災復興支援プロジェクトとして、ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携し「チャリティーふれあいスポーツフェスティバル」を開催し、オークションや募金活動を実施しました。収益金は「東日本大震災被災者等支援基金」へ全額寄附しました。また、ホームタウンスポーツ推進パートナーPR用のポスター作成・掲出をはじめ、東日本大震災で被災された方への応援メッセージビデオを作成し市内施設等で継続的に放映しました。

・小・中学校での巡回サッカー教室(137回)、市制記念試合(7月9日)への1,000組の市民招待(847組、昨年度比72組増)、ふろん太くん似顔絵展を実施しました。また、フォトコンテスト「わたしの川崎フロンターレ」を初めて開催するなど、川崎フロンターレをより「身近な市民クラブ」として多くの市民に認知してもらうための取組を推進しました。

・後援会会員募集の広報協力による支援等を行い、後援会会員数は昨シーズンを上回る24,588人(昨年度比584人増)となりました。

2012年度 実施結果

達成状況区分
3

・ホームタウンスポーツ推進パートナー等と連携し、ふれあいスポーツ教室の実施(小中学校43校)、多摩川美化活動や地域イベント(高津区民祭、日吉まつり等)への参加、ホームゲーム等への市民招待を実施(富士通レッドウェーブ、東芝ブレイブサンダース、NECレッドロケッツ、富士通フロンティアーズ)し、競技のPRや、選手等とふれあう機会を広げることで、スポーツを通じた市の魅力発信につなげました。

・地域メディアや市政だよりを活用したホームタウンスポーツに関する広報・PRを行いました。

・パートナー制度の課題を整理し、親しみやすい名称(かわさきスポーツパートナー)への変更や対象要件の明確化など要綱の改正に向けた手続き等を行いました。

・川崎フロンターレと連携し、小・中学校での巡回サッカー教室を110回開催しました。

・市制記念試合(6月30日)への1,000組の市民招待(当日来場856組、昨年度比9組増)、ふろん太くん似顔絵展の実施、2回目となるフォトコンテスト「わたしの川崎フロンターレ」(応募総数95点)の実施など、川崎フロンターレを、市民にとって、より身近な存在とするための取組を推進しました。

・後援会会員募集の広報協力による支援等を行いました。

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
○ 総合的なスポーツ施策の推進 本市のスポーツ施策の内容や方向性を定める「スポーツ振興基本計画」を策定し、「スポーツのまち・かわさき」を推進することで地域の活性化につなげます。 また、地域住民が主体となって運営する総合型地域スポーツクラブを育成して、地域に根ざしたスポーツ振興を推進します。	●大規模スポーツ大会の実施 ①国際陸上競技大会 ②日本陸上競技選手権大会 ③トランポリンジャパンクラブチャンピオンシップ ●競技スポーツ選手、指導者育成事業の推進 ●各種スポーツ事業の実施 ●新たな「スポーツ振興計画」の策定に向けた取組の推進	●大規模スポーツ大会の実施 ①国際陸上競技大会 ②日本陸上競技選手権大会 ③トランポリンジャパンクラブチャンピオンシップ ④トランポリンワールドカップ川崎大会 ●競技スポーツ選手、指導者育成事業の推進 ●各種スポーツ事業の実施 ●新たな「スポーツ振興基本計画」の策定			事業推進
	●総合型地域スポーツクラブの市内5クラブ設立 ●育成アドバイザー派遣などの設立準備会の活動支援 ●広報などによる既存クラブの活性化支援	●総合型地域スポーツクラブの川崎市・宮前区での設立(各区1クラブの設立完了) ●育成アドバイザー派遣などの設立準備会の活動支援 ●広報などによる既存クラブの活性化支援	●新たな「スポーツ振興基本計画」に基づく事業推進 ●総合型地域スポーツクラブの設立支援		事業推進

2011年度
実施結果

達成状況区分

3

・国際陸上競技大会、日本陸上競技選手権大会(混成競技)、トランポリンワールドカップ川崎大会及びトランポリンジャパンクラブチャンピオンシップを開催し、スポーツの普及・振興を図りました。
 ・川崎市スポーツ振興基本計画については、審議会や策定委員会を開催し、素案の策定作業を行いました。平成23年8月に新たにスポーツ基本法が施行され、同法の規定により、地方の計画は国の基本計画を参酌して策定することとされたことにより、市の計画の策定期限を見直し、調整を行い、来年度以降へ変更しました。また、国の中央教育審議会を傍聴し国の基本計画の策定に関する情報収集を行うなど、計画の策定に向けた取組を進めました。
 ・川崎市スポーツ協会と連携した各種目における指導者の派遣事業、ジュニア選手の強化・育成のための試合・教室・練習会を実施したほか、川崎市レクリエーション連盟と連携し「あそびの日」を実施しレクリエーション活動の普及を行いました。
 ・川崎市総合型地域スポーツクラブ育成連絡協議会の開催等により、既存クラブ及び設立準備クラブの活性化が図られ、新たに川崎市川中島地区及び宮前区菅生地区にクラブが設立されました(各区1クラブの設立が完了)。
 ・関係団体や地域との連携により、新たに中原区大戸地区におけるクラブ設立に向け、設立準備クラブが活動を開始しました。

【環境等の変化・課題等】

・「川崎市スポーツ振興基本計画」については、本計画策定中の平成23年8月に新たに「スポーツ基本法」が施行され、『地方のスポーツ計画は国が策定する「スポーツ基本計画」を参酌して策定すること』とされました。そのため、平成24年3月末に策定の国のスポーツ基本計画を踏まえて市の計画を策定する必要が生じ、計画の策定期限を変更しました。

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
2012年度 実施結果 (参考)当初の目標 に対する達成状況	達成状況区分 3* 達成状況区分 3	・国際陸上競技大会「ゴールデンランブリ川崎」(5月6日)には20,600人の観客、「国際トランポリンジャパンオープン」には325人の大会参加者を得て、また、川崎国際多摩川マラソンでは6,580人、多摩川リバーサイド駅伝では6,994人と定員(6,200人)を上回る申込を得、それぞれ適切に開催し、本市のスポーツの推進を図りました。 ・「川崎市スポーツ推進計画」の策定に向け、審議会の開催、庁内調整、パブリックコメントの実施を行い、9月末に計画を策定しました。また、「川崎市スポーツ推進計画庁内委員会」を設置・開催し、計画の進捗管理の体制を整備し、「スポーツのまち・かわさき」の推進に向けた取組を行いました。 ・川崎市レクリエーション連盟と連携し「全国一斉あそびの日in川崎」を5月20日に実施したほか、親子ふれあい運動遊びコンサート(3月29日)や体育の日記念事業として市内でさまざまなスポーツ事業を実施し、幼児から高齢者まで幅広い世代の人がスポーツに親しむことのできる機会を提供しました。 ・川崎市スポーツ協会と連携し、各種スポーツ指導者の派遣、各種目におけるジュニア選手の強化・育成のための試合、教室、練習会等を実施しました。 ・県等が実施する「指導者派遣事業」の周知、各種イベントの広報支援などを行い、総合型地域スポーツクラブ及び設立準備クラブの支援を行いました。 ・中原区と連携を図り、設立準備クラブの準備委員会に参加するなど活動を支援し、市内9つ目となる総合型地域スポーツクラブ「中原元気クラブ」が3月23日に設立されました。 【環境等の変化・課題等】 ・2011(平成23)年8月に新たに「スポーツ基本法」が施行され、『地方のスポーツ計画は国が策定する「スポーツ基本計画」を参酌して策定すること』とされました。そのため、2012(平成24年)3月末に策定の国のスポーツ基本計画を踏まえて市の計画を策定する必要が生じました。 【変更後の目標】 ・川崎市スポーツ推進計画の策定を2012年度に変更しました。			

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
アクションプログラム：シティセールスの推進と観光振興					
○ 観光の振興 多様な広報戦略を展開し、観光による市内への集客を推進するとともに、観光協会、商工会議所、市内企業等と連携して産業を核とした地域観光資源の創出・拡充を図ります。	●観光振興のための情報発信の推進 ①ホームページ・パンフレットによる情報の発信 ②主要駅(川崎・登戸)での観光情報案内の実施 ③羽田空港6県市観光情報センターの共同運営 ●ビジット・ジャパン・キャンペーン関連事業の実施	●観光振興のための情報発信の推進 ①ホームページ・パンフレットによる情報の発信 ②主要駅(川崎・登戸)での観光情報案内の実施 ③羽田空港6県市観光情報センターの共同運営 ●ビジット・ジャパン・キャンペーン関連事業の実施 ●外国語ボランティアガイドの育成・活用 ●かわさき市民祭りの開催			事業推進
	●かわさき市民祭りの開催				
	●市内への集客推進 ①民間主導の「川崎産業観光ツアー」及び「川崎工場夜景関連ツアー」の推進 ②教育旅行誘致活動の実施	●市内への集客推進 ①民間主導の「川崎産業観光ツアー」及び「川崎工場夜景関連ツアー」の推進 ②教育旅行誘致活動の実施			
	●産業観光情報の発信 ①ホームページやパンフレット等による情報発信の実施 ②川崎産業観光シンポジウムの開催	●産業観光情報の発信 ①ホームページやパンフレット等による情報発信の実施 ②川崎産業観光シンポジウムの開催			
	●川崎産業観光検定の実施及び合格者の活用・支援	●川崎産業観光検定の実施及び合格者の活用・支援			

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
2011年度 実施結果	達成状況区分 3	・パンフレット、ホームページ等、多様な媒体を活用し情報発信を強化するとともに、観光情報端末、観光案内所により、来訪者への観光情報案内を実施しました。また、観光パンフレットと観光協会ホームページを相互に連動させ、タイムリーに情報を提供する仕組みを作りました。 ・外国人観光客を誘致するため、国際観光商談会への参加、外国人留学生モデルツアーの実施、外国語ホームページ・パンフレットの展開、外国メディア等の招聘、羽田空港6県市観光情報センターの共同運営、観光案内所の電話通訳の導入を行いました。また、外国語ガイド団体と連携し、ガイドコースの設定や外国語ボランティアガイドツアー等を行いました。 ・かわさき市民祭りを11月4、5、6日に開催し、約56万人の集客がありました。また、来年度の実施に向けて検討を始めました。 ・産業観光ツアー及び工場夜景ツアーを継続実施しました。 ・教育旅行誘致活動を4回(長野・北海道・北東北・九州の旅行会社を訪問しての本市産業観光のPR)実施しました。 ・産業観光パンフレットの積極的な配布や産業観光・工場夜景ホームページのリニューアルを実施し、情報発信の強化を図りました。 ・産業観光振興協議会・協議会員と産業観光学生プロモーターによるワークショップの開催など、産業観光振興協議会を活用し産業観光の推進を図りました。 ・産業観光検定合格者向け産業観光ガイド養成講座を10月21、22日に、産業観光検定を3月11日に実施しました。 【環境等の変化・課題等】 ・東日本大震災を踏まえ、国の緊急雇用創出事業として①雇用創出②被災地支援③市内観光施設・イベントの集客向上を目的とする「観光振興イベントと連携した東北復興支援事業」を実施しました。具体的には、集客力のある本市のイベント開催時に東日本応援ブースを設置し、東北地方を中心とした東日本各地の名産品等を販売することにより、本市の購買力を活かした被災地の復興支援を行うというものです。平成23年度事業を通じて、約12,800千円の売上げと、市内避難者2人の雇用を実現しました。			
2012年度 実施結果 (参考)当初の目標 に対する達成状況	達成状況区分 3* 達成状況区分 3	・観光協会ホームページのタイムリーな更新に向け、イベント情報を随時提供しました。また、市内ホテルとの連携により宿泊者を対象としたパンフレット配布、観光情報端末機の新規設置(3ホテル)を実現し、情報発信力を強化しました。 ・羽田空港6県市観光情報センターの共同運営、市観光協会と協力しての国際観光商談会への出展、東アジアを中心としたメディア等の招聘事業の実施など海外に向けた情報発信の強化に取り組むとともに、外国人観光客誘致推進セミナー(9月7日)の開催など外国人観光客の受入れ体制の整備に向けた取組を実施しました。また、神奈川県インバウンド推進協議会との連携による台湾の教員などの市内観光施設への招聘、外国語ガイド団体と連携した外国人誘致やガイドの実施など外国人観光客誘致に取り組みました。これらの結果、台湾の教育旅行で2校(75人)の誘致を実現しました。 ・実行委員会の開催、会場調整等を図り、11月2日～4日にかわさき市民祭りを開催し、56万7千人の集客がありました。 ・重点分野雇用創出事業「観光振興イベントと連携した東北復興支援事業」として、8人の新規雇用と12のイベント(川崎大師風鈴市、市政記念多摩川花火大会等)での東北物産販売(売上げ7,139千円)を実現し、被災地支援を行いました。 ・産業観光施設等との調整を行い、民間旅行会社等主催の産業観光ツアー及び工場夜景撮影ツアー計12回実施しました。 ・他都市(室蘭・四日市・北九州)と連携し、「工場夜景・美の祭典」フォトコンテストを企画・実施したほか、「日本四大工場夜景カレンダー」を民間企業とタイアップし、10月下旬から販売しました(販売主体は民間企業、3月末売上げ数673部)。 ・横浜市や三浦市と連携し、中部地区から九州北部にかけて教育旅行誘致活動を行いました。(愛知・大阪・広島・福岡等で8件の誘致説明会開催) ・産業観光ガイド養成講座を9月7日、8日に開催したほか、産業観光検定を3月10日に実施し193人が受験しました。 【環境等の変化・課題等】 ・東日本大震災により大きな打撃を受けた東北地方の復興支援が求められており、国の重点分野雇用創出事業を活用しながら、本市観光振興と併せた事業を実施していく必要があります。 【変更後の目標】 ・重点分野雇用創出事業「観光振興イベントと連携した東北復興支援事業」を実施します。			

施策計画名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
○ シティセールスの推進 さまざまなメディアの活用や民間事業者との連携により、海外も含め、市内外に向けたシティセールスを推進します。	●メディアリレー ションの構築とパ ブリシティ活動の 強化 ●本市魅力情報 の効果的な発信 ●イメージアップ 事業の展開	●メディアリレー ションの構築とパ ブリシティ活動の 強化 ●本市魅力情報 の効果的な発信 ●イメージアップ 事業の展開			事業推進
2011年度 実施結果	達成状況区分 3	・パブリシティ活動(各種メディアに働きかけ情報を取り上げてもらうこと)を積極的に実施し、広告換算額で約12億円のメディアへの露出を得ることができました。また、新聞、情報誌等への広告掲載、パンフレットの製作・配布、プロモーションビデオの制作・放映等、さまざまなメディアやツールを活用し、本市の魅力を市内外に発信しました。 ・主要テレビ局情報番組のロケハン・ロケ同行やニュース素材映像の提供などによりメディアリレーション(メディアとの良好な関係)の構築・強化を図りました。 ・フォーリンプレスセンターとの連携による海外メディア向けプレスツアーの実施、訪日旅行者向け情報誌への情報掲載、パンフレットやプロモーションビデオの英語版作成などを通じ海外向けの情報発信を行いました。 ・イメージアップ事業に認定された8事業について、民間活力と連携した魅力づくりや情報発信に向けて、連携・支援を行いました。また、24年度認定事業の募集・選定を行いました。			
2012年度 実施結果	達成状況区分 3	・フォーリンプレスセンターとの連携による海外メディア向けプレスツアーの実施を含むパブリシティ活動(各種メディアに働きかけ情報を取り上げてもらうこと)を積極的に行い、本市の取組・イベント等の魅力情報を、首都圏の主要テレビ局情報番組や川崎特集のムック本、海外紙等、各種メディアを通じて発信することができました(広告換算額で約25億円のメディアへの露出)。 ・ソーシャルメディアを活用した情報発信など本市の魅力情報の効果的な発信を図りました。また、シティセールスパンフレットを多言語化(ハングル、中国語)し、東アジアを中心とした現地旅行代理店で配布するとともに、中国の旅行ポータルサイトに川崎の情報を掲載するなど、海外への情報発信を実施しました。 ・イメージアップ事業に認定された7件の事業について、連携・支援を行い、民間活力と連携した魅力づくりや情報発信を行うとともに、申請者等を対象とした講座を実施し、情報発信力の向上を図りました。 ・次期シティセールス戦略プラン策定に向け、関係部署へのヒアリングの実施、資料の作成等を行い、所管課としての考え方の整理を行いました。			
○ アートを活かしたまちづくりの推進 市民の芸術文化の創造・発信・交流を促進し、文化芸術を活かしたまちづくりを推進します。	●「川崎・しんゆり 芸術祭(アルテ リッカしんゆり)」 の開催支援等に よる市北部地域 における芸術のま ちづくりの推進	●「川崎・しんゆり 芸術祭(アルテ リッカしんゆり)」 の開催支援等に よる市北部地域 における芸術のま ちづくりの推進			事業推進
2011年度 実施結果	達成状況区分 3	・「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)」実施に伴う関係機関、関係部局との連絡調整、広報等の開催支援を行いました。また、東日本大震災の被災者・避難者の方々の無料招待や募金活動支援等を行いました。開催期間中に約22,700人が来場し、まちの賑わいを創出するとともに「しんゆり・芸術のまち」を市内外に発信しました。 ・アンケート結果、企画会議、実行委員会の意見等をもとに、持続可能な事業推進体制の確立に向けた検討を行い、継続開催に向けて、次回芸術祭の実行委員会を立ち上げ、多摩区も含めた広域開催に向け、関係機関や区等と連携を図りました。また、宮前区、多摩区、麻生区が一体となった文化圏の形成を目指し、川崎北部文化芸術振興連絡会議を設立・開催し、川崎北部地域の文化資源を活用したまちづくりに向けて検討を始めました。 ・市民ボランティアの養成(アート講座の開催)を行い、文化芸術を活かしたまちづくりを支える人材育成を行いました。			
2012年度 実施結果	達成状況区分 3	・「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり2012)」の実施に伴う関係機関との連絡調整、広報支援等を行いました。アルテリッカしんゆり2012の開催期間(4月27日～5月6日)中に約22,900人の来場者があり、まちの賑わいの創出と、「しんゆり・芸術のまち」を市内外へ発信し、芸術のまちづくりを推進しました。また、2013年度の開催に向け、開催準備及び広報等の支援を行いました。 ・アート講座(全12回)の開催支援を行い、文化芸術によるまちづくりを支える人材(市民ボランティア)育成を図りました。 ・市北部地域における文化芸術を活かしたまちづくりに向け文化資源の洗い出しを行いました。また、市域を越えた文化芸術振興の一環として、新たに稲城市との間で広報連携のための仕組みを構築しました。			

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
○ 文化芸術振興による魅力発信 市内に数多くある文化芸術に関する地域の資源を活用し、文化芸術の振興を図ることにより本市が持つ魅力を発信します。	●岡本太郎生誕100年のイベント等の実施	●岡本太郎生誕100年記念事業の実施			事業推進
	●岡本太郎美術館での展覧会を中心とした文化芸術振興事業及び教育普及事業の実施	●岡本太郎美術館での展覧会を中心とした文化芸術振興事業及び教育普及事業の実施			
	●岡本太郎に関する資料の収集、保存、調査研究等の実施(デジタルアーカイブ第1期)	●岡本太郎に関する資料の収集、保存、調査研究等の実施(デジタルアーカイブ第2期)			
	●生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向けた調整・検討	●生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向けた指定管理者制度の導入の検討	●生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向けた指定管理者制度の導入の準備	●指定管理者による生田緑地の横断的管理運営の推進	
	●藤子・F・不二雄ミュージアムの整備 ●開館に向けた広報・イベントの実施	●藤子・F・不二雄ミュージアムの開館 ●指定管理者による効率的・効果的な運営 ●新たな魅力の発信拠点としての藤子・F・不二雄ミュージアム事業の推進			
	●青少年科学館の改築整備着手	●青少年科学館改築整備完了・開館			

2011年度
実施結果

達成状況区分

3

・岡本太郎生誕100年記念事業の企画展及び関連イベント等を実施し、東京国立近代美術館や市民ミュージアム等さまざまな連携の効果もあり、入館者数は前年(70,033人)を大きく上回り、88,042人となりました。また、「人間・岡本太郎展」の入館者49,076人は開館記念展に次ぐ集客力のある展覧会となりました。

・岡本太郎美術館では、教育普及事業及びデジタルアーカイブ第2期についても実施しました。
・生田緑地の横断的管理運営体制の構築に向け、民間活用推進委員会を開催し、指定管理者制度の導入が望ましいという審議結果を得るとともに、効果的・効率的な管理運営体制の推進に向けた課題等について、関係部局との調整を行いました。
・藤子・F・不二雄ミュージアムの開館に向けて、認知度・期待度を高めるため、市内を中心に広告の掲出、イベントの実施、地域イベントへの参加、内覧会、開館式典の実施、パブリシティ等、戦略的に広報を実施しました。
・覚書及び基本計画に基づき、寄附の受納や基盤整備等を進め、条例規則等を施行するとともに、基本協定を締結して7月15日から指定管理者による管理運営を開始し、計画どおり平成23年9月3日に藤子・F・不二雄ミュージアムを開館しました。また、開館から平成24年3月末までに307,560人の来館がありました。
・藤子・F・不二雄ミュージアム開館後も、広報活動を推進するとともに、緊急雇用制度を活用したミュージアム及び周辺施設の観光案内、地域と連携した取組などを推進しました。
・青少年科学館は、生田緑地の整備工事と連携・調整しながら新館(自然学習棟)改築、本館改修工事を実施し、平成24年3月に工事が完了しましたが、プラネタリウムシステムの試行等準備期間が当初計画よりも必要となったため、グランドオープンを、平成23年度末から平成24年4月28日(土)に変更しました。

【環境等の変化・課題等】

・青少年科学館の新たなプラネタリウムにおける新型メガスター投影装置・周辺システム試行等の開館準備期間が、システム開発業務の中で必要となり、円滑な博物館運営を実施するために、当初予定の平成23年度末から、平成24年4月28日(土)にグランドオープンを変更しました。

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
2012年度 実施結果 (参考)当初の目標 に対する達成状況	達成状況区分 3* 達成状況区分 3	・岡本太郎美術館では、展覧会の内容充実を図るとともに、広報誌の発行や無料広報媒体の活用など広報活動の工夫に努め、入館者数は83,037人(歴代3位)となりました。 ・岡本太郎美術館では、ワークショップの開催や教員研修などの教育普及事業及び、デジタルアーカイブ事業を推進しました。 ・生田緑地の回遊性向上に向け、岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム、民家園、宙と緑の科学館とが連携して割引を試行実施しました。 ・生田緑地の横断的管理に向け、生田緑地と3つの文化施設を横断的に管理する事業スキームを確定させ、指定管理者の公募・選定、引継ぎを行いました。 ・指定管理者による藤子・F・不二雄ミュージアムの管理運営を行い、2012年度は481,619人が来館しました。 ・指定管理者と連携・協力し、開館1周年、ドラえもん誕生100年前記念イベントの実施等、新たな魅力の発信拠点として事業を推進しました。ドラえもん特別住民票を作成し、9月3日から各区役所・支所窓口で配布しました(3月末までに約75,000枚配布)。 ・藤子・F・不二雄ミュージアム直行バス車内ポスターによる生田緑地広報の実施、ドラえもん特別住民票のデザインへの生田緑地の採用、生田緑地4館スタンプラリーの実施など、生田緑地全体の魅力向上を図りました。 ・地元商店会の協力による岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム等、生田緑地施設の街路灯へのフラッグ掲示、多摩区観光推進協議会の協力による商店街等地域情報を盛り込んだ藤子・F・不二雄ミュージアム周遊マップの作成・配布等、地域と連携したまちづくりを推進しました。 ・青少年科学館は4月28日に「かわさき宙と緑の科学館」としてリニューアルオープンし、来賓・市民招待者による開館記念式典を実施しました。 ・実験工房スペシャル(約4,800人参加)、金環日食大観察会(約1,000人参加)、生田緑地の昆虫写真展(観覧者8,312人)など、かわさき宙と緑の科学館リニューアル記念事業を年間を通じ実施し、年間目標である入館者30万人を2013年1月13日に達成しました。 【環境等の変化、課題等】 青少年科学館のリニューアル工事期間の延長や開館準備期間を十分に確保する必要が生じました。 【変更後の目標】 青少年科学館のリニューアルオープンを2011年度末から、2012年4月に変更しました。			
○ 東海道を活用したまちづくりの推進 東海道を活用したまちづくり文化・交流拠点施設の整備を進めます。	●「川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方」策定 ●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点基本計画策定	●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点基本設計・実施設計	●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点整備	●(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点開設	事業推進
2011年度 実施結果 達成状況区分 3	・(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点の基本設計・実施設計を行うとともに、展示の設計を進め、駐輪場との複合施設の設計を完了しました。				
2012年度 実施結果 達成状況区分 4	・施設建築工事を進めるとともに、展示手法や内容の検討を行い、展示制作を進めました。なお、建築工事における地中障害物処理等による工期の延長のため、展示制作の完了についても延期しました。 ・地域と連携した管理運営を実現するため、(仮称)東海道まちづくり文化・交流施設運営準備会における要望等を踏まえた調整・検討を行い、東海道かわさき宿交流館条例を制定し、指定管理者の指定を行いました。 【環境等の変化・課題等】 ・建築工事における地中障害物処理等により工期が、当初2012年度中に完了する予定であったが、延期となり、展示制作の完了についても、延期しました。 【新たな課題等への対応】 ・建築工事の完了後、展示を設置するとともに、開館に向けた取組を推進し、当初予定のとおり2013年に開設します。				

施 策 計 画 名	現 状	事業内容・目標			
		2011(平成23)年度	2012(平成24)年度	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度以降
アクションプログラム：多摩川プランに基づく施策の推進					
○ 多摩川プランの推進 市民団体等と連携しながら、多摩川における豊かな河川空間の創出をめざす「多摩川プラン」の推進に取り組めます。	●多摩川プラン推進会議の運営 ●二子橋、等々力・丸子橋地区周辺エリアの再整備 ●上平間・古市場地区周辺エリアの再整備検討	●多摩川プラン推進会議の運営 ●等々力・丸子橋地区周辺エリアの再整備実施 ●マラソンコースの計画的な改修工事実施 ●バーベキュー利用環境の整備実施(簡易水洗トイレの設置など) ●バーベキュー広場(有料)の開設及び運営			事業推進
	●市内3つの水辺の楽校の設立 ●各水辺の楽校の活動支援	●市内3つの水辺の楽校間の交流事業の実施 ●流域の他都市の水辺の楽校等との連携	●バーベキュー利用環境の整備完了 ●指定管理者制度を導入したバーベキュー広場の運営		
2011年度 実施結果	達成状況区分 3	・多摩川プランの進行管理や評価を行うため、多摩川プラン推進会議や庁内会議を開催しました。 ・等々力・丸子橋地区周辺エリア整備について京浜河川事務所との協議を実施しました。また、旧日本ハムグラウンドの利用について、地域や各スポーツ団体との協議・調整を行い、整備計画(改訂版)(案)を作成し、パブリックコメントを実施(1月30日～2月29日)しました。 ・重点エリアの整備計画に基づき、広場の整備をしたほか、簡易水洗トイレ(多摩川緑地管地区、大師河原地区)の設置やマラソンコースの改良を行いました。 ・バーベキュー広場の開設(平成23年4月1日)及び運営を行い、指定管理者を選定しました。また、バーベキュー利用環境の整備として、アクセス経路としての階段の設置や水洗トイレの増設を行いました。 ・市内3校の水辺の楽校については、各校独自の企画・運営による事業や青少年科学館との連携によるかわさき多摩川博の調査事業等が実施されました。市は3校合同の観察会(6月5日)の事務局として、計画策定、日程調整を行うなど、3校の交流及び連携を深める取組を進めました。また、他自治体の水辺の楽校を川崎に招いての合同観察会の計画・日程調整等を行い、観察会を3校や他自治体の水辺の楽校と協働で実施しました(6月12日)。			
2012年度 実施結果	達成状況区分 3	・第11、12回多摩川プラン推進会議を開催し、多摩川プランの進行管理を行いました。 ・等々力・丸子橋地区周辺エリアの再整備について、パブリックコメントの実施結果を取りまとめ公表し、整備計画(改訂版)を12月に策定しました。 ・指定管理者によるバーベキュー広場の管理運営を実施しました。 ・マラソンコースの再整備(上平間、諏訪)、や5箇所(古市場、小向仲野町、丸子橋、宮内、諏訪)6基の簡易水洗トイレ設置を実施しました。 ・サイクリングコースについて、関係機関との調整、委託業務による基礎調査、サイン整備及び危険箇所への路面標示を実施しました。 ・市内に3校ある水辺の楽校の合同事業事務局として計画の企画策定等を行い、観察会等を3校との協働により実施しました。また、市内3校の各水辺の楽校において、観察会などの自主事業を10回以上実施し、企画提案や広報などの支援を行いました。 ・多摩川流域の他自治体との連携を図り活動を活性化するため、他自治体の水辺の楽校へ参加し情報交換等を行いました。また、多摩川流域水辺の楽校連絡協議会による子どもシンポジウムや野鳥観察会へ参加し、市内水辺の楽校の取組等について情報発信を行いました。 ・市内水辺の楽校とかわさき宙と緑の科学館が協力し、かわさき多摩川博事業として、多摩川流域植物調査を3回実施しました。 ・大学等と連携しながら、行政及び水辺の楽校が学生に対して講演を実施し、多摩川をより理解してもらうための活動を行いました。			